

平成28年度 生物多様性保全に関する主な新規実施施策

I 場をまもる・つくる

1 外来種対策

(1) アカミミガメ対策

■生息実態調査

平成26年度、27年度と継続して実施してきた調査地点（西区明石川水系）に加え、これまで生息状況が不明である北区においても、新たに生息実態調査（5か所を予定）を実施する。

■市民との協働によるアカミミガメ防除

市民との協働で実施するアカミミガメの防除をさらに促進するため、新たに助成制度（アカミミガメ協働防除活動助成）を設け、防除団体の拡充を図る。

（助成制度の概要）

○助成金の交付対象となる活動

- ・アカミミガメが多く生息している明石川水系（神戸市西区）で行われるアカミミガメの防除活動に対して優先的に助成
- ・アカミミガメの捕獲のために機材を3つ以上、連続2日以上設置すること
- ・機材の設置又は回収時に、本市が開催するアカミミガメの防除に関する講習会に会員5名以上が参加すること。

○交付対象とする団体数

5団体

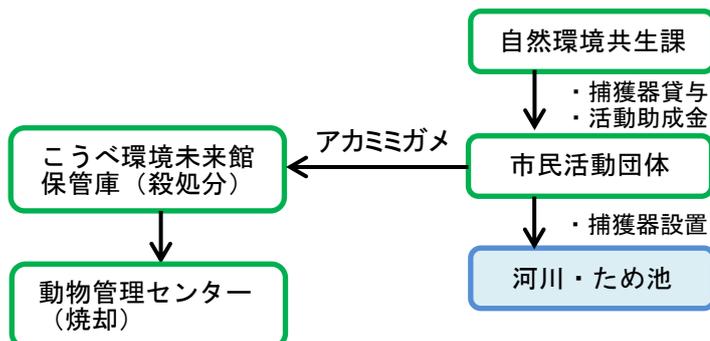
○助成金の額

捕獲できたアカミミガメの数に応じて、以下のとおり助成金を交付する。

捕獲数	助成金の額
0～5匹	3万円
6～15匹	4万円
16匹以上	5万円

平成28年度からは、防除したアカミミガメを殺処分（冷凍）し、動物管理センターにて焼却処理する。

【アカミミガメ防除実施スキーム】



■水生植物への影響調査

アカミミガメによる水生植物への影響を調査するため、アカミミガメともに水生植物を1m四方の試験区に投入し、水生植物への影響を調査する。

■イシガメのサンクチュアリづくりに向けた具体的方策の検討

イシガメを保全するために必要な具体的方策(保全区域の選定、保全方法等)について、具体的方策を検討する。

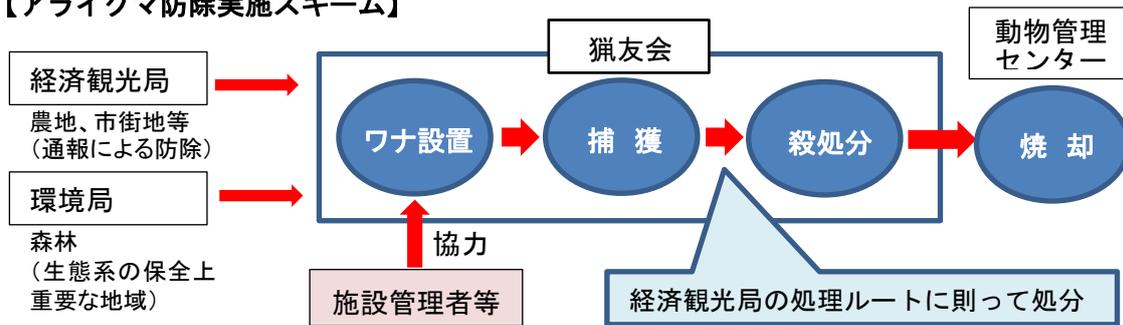
(2) アライグマ対策

■生息実態調査を踏まえた防除事業

平成26年度、27年度に実施した生息実態調査の結果を踏まえて、希少種が生息するなど生態系の保全上、重要な地域において、アライグマの防除を行う。

効率的、効果的に防除を進めるためには、施設管理者等の協力(わなの見回り、餌の交換等)が不可欠であることから、本防除事業を通じて、施設管理者等と協働で防除を行っていく仕組みづくりを検討していく。

【アライグマ防除実施スキーム】



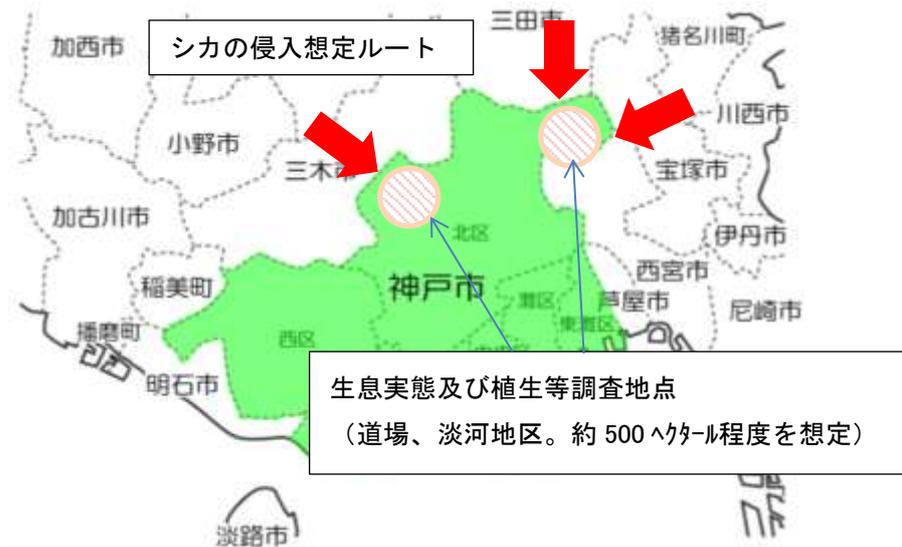
2 在来野生鳥獣対策

○ニホンジカ対策

■生息実態調査

ニホンジカについては、現在、北区藍那地区(国営明石海峡公園)周辺において、侵入が確認されており、国土交通省及び神戸市(経済観光局、建設局、環境局)が連携して、防除に取り組んでいる。

神戸市周辺(特に三田市、猪名川町など)でも、多数のシカの生息が確認されていることから、本市への侵入ルートとして考えられる北区道場町、淡河町の森林等において、シカの生息状況の調査(踏査調査)及び植生の被害状況等の調査を行うことで、生態系への大きな被害を未然に防止する。



II 人をそだてる

1 きせつの生きものがしガイドを活用した出前授業等

現在、市内の全小学3年生向けに作成、配布している「きせつの生きものがしガイド」のさらなる活用を図ることで、学校教育における生物多様性保全の大切さを意識啓発していくため、市民団体、こうべ環境未来館等と連携して、学校への出前教室の実施、未来館における生物多様性関連授業の実施等を行う。

- ・小学校3年生を対象とした出前授業：10校
- ・こうべ環境未来館自然体験学習：7校（8回）

2 市民向け観察会、庁内向け研修会

神戸市が有する豊かな自然を市民に広く知っていただき、生物多様性を保全することの大切さに気づき、行動につなげていただくためのきっかけとするため、市民向け観察会を開催する。

あわせて、生物多様性の保全に向けた施策を推進するためには、環境局だけでなく、庁内関係部局が、生物多様性の大切さを知り、各局の事業においても配慮を実施していく必要があることから、学識経験者等を招き、庁内向けの研修を行う。

III 活動をつなぐ・ひろげる

- アカミミガメ協働防除活動助成
再掲

IV 恵みを持続的に活用する

- 環境保全型農業の推進

平成27年度に取りまとめた冬期湛水や不耕作地に係るモデル事業の成果である「農業による豊かな生きものにぎわいと8つの工夫」を活用し、経済観光局と連携しながら農業従事者への普及啓発を図る。